

牛が突然死んでしまう

釧路東部事業センター 厚岸家畜診療所 獣医師 大谷 誠

している5頭を無作為に選び採血してみました。また、この農家の死亡した牛について分析してみました。

血液検査の結果です。

- ① 5頭中1頭(分娩後8日目)の牛で低血糖および肝機能低下が見られた。
- ② 5頭中3頭(分娩後2カ月〜5カ月)の牛で慢性炎症が見られた。
- ③ 5頭全てで低カルシウムはなかった。

次に、この農家の過去1年間で

突然死した牛について分析してみました。すると、分娩後まもなく死亡した牛もいれば1年以上搾乳している牛もいて、中には乾乳中に死亡した牛もいることが分かりました。加えて、治療の甲斐なく死んでしまった牛の病名を分析してみると、四変、肺炎や乳房炎、そして肢が悪くて死廃になっている牛がいることがわかりました。

以上より、農家の方へ2つのこ

組合員の皆様、こんにちは。現在も世界中でコロナウイルスが蔓延しており、未だに終息する気配が見られません。3密(密集、密接、密閉)を避け、皆でこの危機を乗り越りたいですね。いつも以上に体調管理には気を付けてください。

も思います。しかし、ウイルスや放射能は目に見えないので、リスク回避が難しいです。そうは言っても、目に見えないものに対するリスクを少しでも回避したいですよね。以前、ある農家で次のような事例がありました。

農家…最近、ウチの牛がよく死ぬんだよな。また死んだらどうしよう。

筆者…確かに今朝死亡した牛も治療歴がないですね。

農家…そうなんだ。昨日までは普通に搾っていたんだけど…。これからも、搾っている牛が原因不明で突然死んでしまつては困る。何か原因を調べる方法は無いかな？

筆者…健康そうに見えて普通に搾乳できている牛でも、何かの病気になるっているかもしれません。また、今は病気になつていなくても、病気になる寸前の牛もいるかもしれませんね。とりあえず、元気に餌を食べて搾乳している牛から何頭か採血してみませんか？何か分かるかもしれません。

今回の筆者が行った提案は「牛が突然死んでしまう」というリスクを少しでも減らすため、血液検査で原因を目に見えるようにするのが狙いです。本来ならば代謝プロファイルテストを行うのが理想です。しかし今回は緊急事態のため、とりあえず通常どおりに搾乳

今回のコロナウイルスもそうですが、病原体には昔から世界中の人々が恐れてきました。同様に東日本大震災の原発事故では放射能汚染に皆が怯えました。これらに共通するのは、目に見えないもの

が原因で死んでしまつたり、病気になるつてしまつたりする恐怖感だと思います。もしもクルマを運転中にシカを発見したら、「あのシカが飛び出してくるかもしれない」とリスクを回避しようと誰し

とを提案してみました。

1. 低Caの牛は全乳期でいなかった。従って分娩後のCa剤投与は効果があったと思われるので、これからも継続する。ただし、分娩後の低栄養が予想されるので、Ca剤を飲ませると同時に糖剤も飲ませてみる。

2. 肢が痛そうな牛や、肺炎・乳房炎が疑われる牛へ早めに抗生物質を用いて治療する。そうすれば、炎症が重度になるのを防げる。また、牛が餌を食べに行く回数が増えて四変が減ることも予想される。

このように、今までの死産事故の原因を振り返ったり、血液検査を行ったりすると、その農場の傾向が分かる可能性があります。つまり、リスクが目に見えてくる可能性があるので。そうすれば「牛が突然死んでしまう」というリスクを少しでも回避できるかもしれない。皆さんも自分の農場のことで疑問がありましたら、獣医師へ相談してみてください。